

社会の未来を感じて



関係者らによるテープカットを
行いイベントが開幕した

地理空間情報高度活用社会（G空間社会）の実現に向けた取り組みや技術などを紹介する「G空間EXPO」が7日、東京都港区の東京都立産業貿易センター浜松町館で開幕した。テーマは「いま、ここ、未来。すべてはG空間の中に」。会期は8日までの2日間。オンラインは1日から12月10日まで開催している。産学官連携によるイベントで測量業界の企業や行政の関係者のほか、学生の参加も見込んでいる。

主催は日本測量協会（日測協、清水英範会長）ら12団体で構成

日測協ら 産学官連携による技術や取り組み紹介

G空間EXPO開幕 きょうまで

するG空間EXPO運営協議など、主力である航空測量技術会。オープニングセレモニーであいさつした清水会長は「今年をアピールした。国際航空は3D点群モデルビは例年にも増して高校や大学といった若い世代からの出展が多い。若い人の力を感じており、頼もしい限りだ。若い世代の参加者には、この展示会で社会の未来を感じ取ってもらいたい」と期待を寄せた。

測量業界からはパスコ、アジア航測、国際航業などがブースを出展した。パスコは人工衛星やドローンなどによる地形のモニタリング技術や、測量したデータの3D活用の事例などを紹介。アジア航測は釣り人向けに開発した海底地形マップアプリ「釣りドコ」、生体情報取得技術のスポーツ分野への応用事例

会場では企業・団体による展示や、ベンダーフォーラムなどを通して日本のG空間情報社会を支える最先端の技術やサービスなどを紹介する「地理空間情報フォーラム2023」も開かれている。